

開催地名	宮崎県高鍋町
開催日時	令和5年10月6日（金）13：25 ～ 15：15
開催場所	高鍋西中学校体育館
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	学校生徒・地域住民 97 名
開催経緯	学校と地域が連携した防災訓練や生徒が主体となった防災訓練を実施して行きたいと考えていたところ、まずは、本年度、本事業を活用して、東日本大震災の被災地で活動された方のお話を聞き、生徒の防災意識の向上を図りたかった。
内容	（１） はじめに 前回、地元の中学生・高校生という立場ではなく地域の一員であるという自覚を持つことが、防災の一つの基本であり非常に重要であることを話した。地域の一員である自覚と普段からの行動が、災害時に生きてくるからだ。 また、地球は生きている。その中で、災害への危機感を持つことは非常に大切である。 （２） 防災対策 普段からどのような備えが必要かを考えるべきだ。例えば、食力・水は最低1週間分の用意をすべきである。地震が発生してからの購入では遅い。 また、断水したらお皿は洗えなくなる。その場合は、サランラップを巻いてお皿を使用すると洗う必要がなくなり水が不要となる。スーパーで販売されているお惣菜用に使われているトレーなどを再利用するのも良い。 枕元には防災用品6点セットを準備して欲しい。防災用品6点セットとは、 ① 靴下 ② スニーカー ③ ヘッドライト ④ 防犯ブザー ⑤ 携帯ラジオ ⑥ フード付き雨具 である。 大地震発生時には、揺れが収まった後すぐに靴下とスニーカーを履いて、ヘッドライトを付けて足を怪我しないように避難する。なぜなら、足を怪我してしまうと遠くや高台へ逃げる事が出来なくなってしまうからである。併せて、防災マップをしっかりと確認するべきである。 また、前回も想定以上の備えをすべきだと話した。例えば、10メートルの津波警報が発せられたときは、15メートル安全な場所に逃げなければならない。なぜならば、10メートルの津波の上に建物や車などの瓦礫類が浮かび、それらが一緒になって我々に迫ってくる可能性があるからである。相手は自然であり予測が出来ないため、想定以上の備え・行動が重要となってくる。 （３） 避難所運営体験 生徒たちは、設営班・避難誘導班・受付班・総務班・物資班・衛生班・炊き出し班・情報班の各グループに分かれた。体育館にブルーシートを敷いて避難スペースを作ったり、救援物資に見立てた箱を種類別に並べたりして避難所の設営を実際に行った。 そして、設営が完了した時刻の記録を行ったり、救援物資の内容・数を紙に書き出したり、新聞からの情報をまとめたり、お米を炊き出したり、避難所の受付を行うなどを

	して、避難所での運営を楽しみながら実践的に学んだ。 (4) 最後に 「いつも皆が助け合い協力をして、命の大切さと人を思いやる気持ちで仲良く暮し、災害に勝ちましょう。」これが非常に大切な基本である。 このことを守らないと、災害に勝つことは出来ない。普段の生活から、塾でも部活でも学校でも会社に入っても結婚して家族を持っても、この基本を忘れずに必ず守って欲しい。
開催地より	本事業を活用して語り部の方のお話を聞くことで、生徒の防災意識の向上を図ることができたと思うので、今後、学校と地域が連携した防災訓練を開催するための土壌ができた。 また、実体験に基づく、避難所の設置及び運営方法について、実践的に学ぶことができたので、今後の「自助」、「共助」を基本とする防災訓練等に活用していきたい。